所属長	所属科長	事務(局/部)長

令和４年４月４日

理　事　長　　殿

学　　長　　殿

令和２年度予算繰越“オール近大”新型コロナウィルス感染症対策支援プロジェクト研究報告書

標記の件に関しまして、別紙のとおりご報告いたします。
また、本研究報告の内容は、近畿大学学術情報リポジトリ（KURepo）に公開する旨、承諾いたします。

１．カテゴリー	□研究　☑開発・改良　□提案
２．企画題目	アフターコロナの「新たな観光モデル提案」による社会支援

所　　属：経営学部・商学科

職・氏名：教授　金　相　俊　㊞

Ｒ２年度代表申請者

氏名：教授　金　相　俊

令和２年度予算繰越“オール近大”新型コロナウィルス感染症対策支援プロジェクト研究報告書

企画題目	**アフターコロナの「新たな観光モデル提案」による社会支援**
研究者所属・氏名	研究代表者：経営学部　教授　　金　相　俊 共同研究者：経営学部　准教授　岡山　武史 　　文芸学部　教授　　安　　起瑩

１．研究、開発・改良、提案目的･内容

1.　研究支援の背景

新型コロナウィルス感染拡大の影響は過去に経験したことのない余波が待ち受けているように考えられる。第１次産業から第３次産業まであらゆる分野においてそのショックは大きいが、その中でも流動人口、交流人口、関係人口の活発な往来を事業の根幹とする観光・サービス分野は甚大な影響を受けている。日本経済新聞 2020 年 5 月 21 日付けの記事では、4 月の訪日客が 99.9%減少、ホテルや外食の客の足が遠退き、緊急事態宣言が解除されても元には戻らず本格回復は 3 年かかるとの声も上がっていると報じている。

各事業体は生き残りをかけた経営に取り組まなくてはならない。状況はさらに深刻さを増すと予想され、アフターコロナの観光ビジネスへの支援策については一刻でも早く手を打たなければならない喫緊のものとして表面化している。

本研究では、このような状況を踏まえ、近未来の「観光・サービス業」の**ポストコロナの出口戦略**を探るべく、３密を回避し、**持続可能かつ汎用性の高い新たな「観光モデル」**を提案するものである。

2. 研究支援の内容

研究内容は、大別して**「開発・提案」**と**「調査・検証」**に分けられる。

(1)開発・提案:ウィルス感染防止のビジネスプラン

①分散型観光モデルの開発：観光地における観光客集中度がわかるアプリを使用し、観光客の分散誘導を図ることで、感染リスクを減らす一方、観光地や観光・サービス提供機関への安定的な誘客に貢献する。

②ニッチの観光地開発による観光客の分散を誘導

これまで注目されなかった観光地を開発することで観光客の分散誘導を図る一方、地域（地方）の活性化を図る。

(2)調査・検証:専用アプリを使用した分散型観光モデルを実験・検証を行う。

① 専用アプリ（Realstep Spot）を利用し、人気観光地, アミューズメント施設（遊園地、テーマパークなど）、 観光・サービス提供機関（ホテル、旅館、飲食業）、 公共交通及び主要交通機関の拠点（駅、ターミナルなど）での利用者数の状況をリアルタイムで把握することで、混雑（密集）地域や時間帯を避けて観光が可能となり、感染リスクを低下させることはもとより、快適な観光を楽しむことが期待できる。

② 祭､イベント時の観光客の移動特性を分析することでニッチの観光地開発後のマーケティングのためのデータベースの構築が可能となる。ひいては関係人口を増やすことができ、地域活性化にも貢献できる。

③具体的な調査・検証

・Realstep Spot solution の構築
・イベント、大規模祭事（地域祭事を含む）の訪問客の流入経路及び主要な移動手段
・日ごとの訪問客現況/訪問客の特性
・日ごとの滞在平均時間と滞留地域
・訪問客の流入地域

④この研究による研究・提案は、**国連の SDGs17 の目標**のなかの、「すべての人に健康と福祉を作る責任、使う責任」に関連付けながら**持続可能な社会実現**のために実行・貢献できると考えている。

２．研究、開発・改良、提案経過及び成果

[1]研究対象地域を「鳥取県倉吉市」に選定した理由

（１）国の主要政策「地方創生」に適した地域

①一般的な特徴

倉吉市は鳥取県の中部に位置する市である（下図参照）。市の属する鳥取県の人口は 55 万人程度で、東大阪市の 49 万人より少し多いくらいである。県庁所在地の鳥取市は 19 万人、もう一つの拠点となる米子市は 14 万人で、その中ほどにある倉吉市は 4 万 9 千人、大阪府の阪南市の 5 万 4 千人より小さな規模である（いずれも令和 2 年 3 月 1 日基準）。鳥取県の拠点は鳥取市と米子市に二分散しているのが県内・外と交流人口を少なくしていると思われる。情報伝達に影響力の大きい鳥取県と島根県の民間放送テレビは 3 社で相互乗り入れしているが、3 社それぞれ島根県の松江市（TSK：山陰中央テレビジョン放送）と米子市（BSS：山陰放送）と鳥取市（NKT：日本海テレビ）と分散している。日本で唯一県境を越えて参議院選挙区が合区されているところでもある。

倉吉市は、古くから城下町としての風情漂う白壁土蔵群・赤瓦・歴史と共に培われた文化・芸術が織りなす名所・旧跡・歴史街道、また東大山山麓の白金の湯「関金温泉」や大自然の醍醐味を思う存分楽しめる体験スポットも多数ある。歴史・文化・自然・名物・地元自慢の特産品など、人情味豊かな温もりと数々の魅力あふれる街である（倉吉市商工観光課のパンフレットより転記し修正）。

しかしながら市の発展の根幹でもある交流・関係人口の伸び悩みと人口減と共に過疎が進んでいる。

②交通面の特徴

倉吉市への交通便のアクセスをみると東京や大阪など大都市圏から他の都道府県へのアクセスよりも不便で時間もかかる特徴がある。倉吉を含む周辺地域へのアクセシビリティは容易ではない。簡単にいうと大阪からは自動車もしくは高速バスで 3 時間半、特急列車でも 3 時間以上かかる地理的、交通アクセス利便性に欠けるところである（下表参考）。

出所：倉吉市役所商工観光課のパンフレット

出所：倉吉市役所商工観光課のパンフレット

一例で、鳥取県にとってイノベーションとも言われている関西圏からの特急列車「スーパーはくと」は、智頭急行線経由である。この路線は、陰陽連絡路線（山陰の**陰**と、山陽の**陽**）として、1922 年には既に計画がなされていて、1966 年に着工したが、後に国鉄再建の波の中で建設が凍結され，第 3 セクターとして 1994 年に開業したものである。鳥取自動車道も開通が遅れ、米子自動車道が先に開通したため、米子市へ行く日本交通の高速バスが、距離の短い鳥取市へ行く同じ日本交通のバスより時間がかかったほどである。現在も智頭急行線は電化がされていなく単線である。

③観光面での特徴

倉吉市には国の重要伝統的建造物群保存地区として指定されている打吹玉川地区をはじめ、江戸時代末期から戦前までに建てられた家屋や土蔵が多く残り、その街並みは往時の面影を残す懐かしい佇まいをみせている。また、市の南部に位置する関金温泉は約 1300 年前に開かれた山陰地方屈指の古湯として知られ、その無色透明無味無臭のお湯は、古くから「白金（しろがね）の湯」と呼ばれており、日本名湯 100 選にも選ばれている。

温泉の泉質は、神経痛、リウマチなどによいとされる単純放射能泉（ラジウム温泉）で、江戸時代には宿場町、湯治場として栄えたところである。周辺は三朝温泉、羽合（はわい）温泉、東郷温泉郷に囲まれ、世界遺産登録運動を展開している三徳山や岡山県の蒜山高原にも隣接する自然環境に恵まれた

美しい地方都市である。このような観光資源を有するところであるが、周辺の観光地や温泉郷に押されている傾向が目立っており、通過点として位置づけられ、観光客の滞在時間は短く観光都市倉吉というイメージは薄い感がある。

（２）観光による地域活性化を必要とする地域

倉吉市は地方創生に適する特徴を持つ以外も地域の課題である観光の入込客数が伸び悩んでおり、以下の問題点が指摘される。

①倉吉市観光ビジョンによれば、解決すべき課題として「観光客に伝わる資源の目的化、見どころを整理した魅力的な観光モデルコースの作成、観光スポットの滞在時間延伸の対策」が上げられているが、まだ十分達成されていない。

②歴史・自然・文化など数々の観光資源を持っているが、情報発信が適切に行われていないため知名度が低く、主要マーケットからの誘客に繋がっていない。

③周辺観光地に三朝温泉、皆生温泉、湯原温泉、羽合（はわい）温泉、東郷温泉など名湯が多く、温泉をテーマにした誘客に他の温泉郷に遅れをとっている。実例でいうと、前掲と同レベルの名湯とも言われていた「関金温泉」は競争力を失い 2021 年 3 月末で、第 3 セクターで運営する「有限責任事業組合　白金（しろがね）の湯」しか残っておらず、全温泉施設が営業をしていない状況である。

④地域連携 DMO「一般社団法人鳥取中部観光推進機構」との連携が十分に行われておらず、市の観光政策にズレが生じている印象を受ける。

これらの問題点を改善することが倉吉市の課題と考えられる。この“オール近大”新型コロナウィルス感染症対策支援プロジェクトは、当市の観光ビジョンでもある「持続可能な“観光まちづくり”」にも合致する点で、現状に即したものである。

[2]これまでの経過

（１）研究地域選定と準備作業（機器購入と打ち合わせ）

①研究地域の選定：9 月 1 日から 10 月 31 日

・9 月 3 日から 4 日：京都府の京丹後市、鳥取県倉吉市を訪問し、本研究の可能性を打診。

・京都府京丹後市を中心に 7 市町村で構成される「海の京都 DMO」と京都丹後鉄道、そして鳥取県倉吉観光 MICE 協会を訪問し、オール近大プロジェクトの趣旨を説明し、共同での取組み可否を検討していただき、その結果、倉吉観光 MICE 協会が協力をすることで合意に至った。

②準備作業：11 月 1 日から 11 月 30 日

・11 月 4 日から 5 日：倉吉観光 MICE 協会を訪問し、プロジェクトの具体的な進め方、費用の負担など詳細の打ち合わせを行った。なお、流動人口把握に用いる計測機器（リアルステップ）の設置場所、管理、運営などについても、塩川修（倉吉観光 MICE 協会マネージャー）氏と協議を終えることができた。

・学内においては流動人口計測機器（リアルステップ）の購入を完了することができた。

（２）機器設置：12 月 1 日から 1 月 31 日

①流動人口計測機器の設置：12 月 2 日から 4 日

流動人口が計測できる機器（Realstep Spot 及びディバイス）を倉吉市とその周辺地域に設置した。作業は 2 日間にわたって行ったが、ネット環境の不具合などもあり、予定していた場所にすべて設置することができず、1 月に追加作業をすることにした。

②流動人口計測機器の追加設置：1 月 20 日から 22 日

12 月に続いて流動人口計測機器の追加設置を行った。ネット環境の不具合を前もって改善したこともあって、作業は滞りなく行われた。予定していた 26 カ所すべて設置を終えて、残りの 14 台は、GPS 信号受信が不安定な個所に補助器として並列して置いた。2 月 1 日から 28 日までの 1 カ月間の試験運用を行い、3 月からは本格的なデータを収集することにした。

（３）新たな観光モデルの提案に向けての聴き取り調査と計測機器の点検
①聴き取り調査：2 月 24 日から 25 日
試験運用中の流動人口計測機器から得られるデータを基に新たな観光モデルの提案に向けて、倉吉市の観光の実態について聞き取り調査を行った。当日は協会の 3 役（名越会長、岸田副会長、竹歳常務）に会って、倉吉観光の現状、課題、今後のビジョンについて詳しく聞くことができた。翌日は、関金温泉地区の体験プログラムやボランティアツーリズム関連の視察を行った。
②計測機器の点検：3 月 15 日から 16 日
流動人口計測のために設置した機器の点検を行った。その結果、4 カ所に不具合が見つかり、予備器に代替する措置を行った。倉吉観光 MICE 協会にも機器の稼働状況について現状を報告した。機器によるデータの収集は 2021 年 9 月までにしたいという観光 MICE 協会の要望もあった。

（４）計測機器の点検と維持管理：2021 年 4 月 1 日から 8 月 31 日
流動人口のデータの蓄積が本研究の要となるため、令和 2 年度までのデータが分析には不十分であったことから継続研究を要請したところ認められた。研究者である私が計測機器を点検・管理すべきところ、研究期間延長が確定するまでは、倉吉観光 MICE 協会の塩川修（事務局マネージャー）にその業務を無償で委託することができた。途中で不具合のあった機器は設置場所に当たる事業者様の管理が行き届いてなかったたり、ネット環境の不安定に起因するものであった。最終的に分析可能なデータが取れたのは 16 カ所であった。

（５）計測機器の撤収
3 月 1 日から倉吉市とその周辺地域で行ってきた流動人口計測は 8 月 31 日をもって終了し、各事業者様の業務に支障を来さないように 9 月 1 日から 4 日にかけてすべて撤収を完了した。

[3]研究成果

（１）流動人口の分析
2021 年 2 月 1 日から 28 日までテスト期間を経て、3 月 1 日から 8 月 31 日までデータ蓄積を行い、有効であると判断された 16 カ所の機器のデータ解析を行った。
この解析結果をもとに観光の起点となる倉吉駅、バスターミナル、観光協会の案内所など主要な個所に集計データがリアルタイムで見られるモニターを設置して、コロナ過でも３蜜を避けて観光が可能になるよう取り組んでほしいと提案した。
さらに、IT 企業と連携しこのデータが活用できるアプリを開発することで、観光施設への入込状況がスマートフォンを利用してリアルタイムで把握できるようにする、かつ各観光地間の移動時間や所要時間などもわかるようにすれば、旅行者自身が自ら観光プランを組み立てることも可能となる。そして観光事業者（旅行会社など）と連携すれば、団体客も分散誘致が可能となり、快適かつ感染リスクを減らすことが可能となり、事業の継続と同時に生産性のアップにつなげることも可能となる。16 か所の分析データの詳細は添付を参考されたい。

（２）地域資源を活かした観光の振興
ここでは令和 3 年度 3 月に公表された第 12 次倉吉市総合計画一部（40, 41, 66-68, 70, 71 頁）の内容を引用し、加筆・修正を行い、今後、倉吉市の観光の振興について提言する。
１）倉吉市の現状分析
①日本国政府は、平成２９年（２０１７）年度に観光立国推進基本計画が見直され、世界の人々が訪れたくなる「観光先進国・日本」への飛躍を図ることを目的として、観光は日本の成長戦略の柱であり、地方創生への切り札であるという認識の下、訪日外国人旅行者を 4,000 万人にまで拡大すること等を目標に観光による国際的な経済力の強化に取り組んでいる。
②しかし、令和元（２０１９）年度からの新型コロナウィルス感染症拡大の影響により、観光需要が大幅に減少し、観光関連企業に深刻な影響が生じている。このため、まずは雇用の維持・事業の継続の支援に注力するとともに、反転攻勢に転じるための基盤を整備し、感染の状況などを

見極めつつ、強力な国内需要の喚起策を講じ、国内観光の回復を図り、その上で、国・地域ごとに感染収束を見極め、誘客可能となった国などからインバウンドとの回復を図ろうとしている。
③また、国では、将来の自動運転社会や低炭素・脱炭素社会の実現を見据え、新たなモビリティーサービスの社会実装を通じた地域活性化を目指し、環境負担が少なく、高齢者の移動手段の確保や観光客の周遊に資するグリーンスローモビリティの実証調査等を通じて、導入に向けた事業性分析や横展開するための課題の整理を進めている。
④倉吉市では、後世から大切に引き継がれた歴史や伝統文化、多彩で豊かな自然環境や農産物など観光資源の磨き上げと、ポップカルチャーを活用した新たな観光資源の発掘により、伝統なる町並みとアニメなどのポップカルチャーが融合した「レトロ＆クールツーリズム」を進めている。
⑤近年の観光入込客数は緩やかな増加傾向にありますが、伸び悩んでおり、依然として、日帰り旅行客や他地域に宿泊した立ち寄りの旅行客が多く、市内の滞在時間が短いため観光消費額の増加に繋がっていない現状である。
⑥他方、年間約 60 万人が訪れる主要観光スポット「赤瓦・白壁土蔵群エリア」の西側には、「円形劇場くらよしフィギュアミュージアム」が平成 30（2018）年に、また中心部には「打吹回廊」が令和元（２０１９）年にオープンし、令和７（2025）年春には待望の「鳥取県立美術館」が開館する予定となっており、観光拠点が次々と誕生している。
⑦市民対話集会では、空き家を若手芸術家のアトリエにしてはどうかという意見や、町家をゲストハウスにしてはどうかという意見がある。
⑧これらの観光拠点を、電動自動車などのグリーンスローモビリティで繋ぐとともに、魅力的な店舗・施設の充実などにより滞在時間を延長し、宿泊をしてもらえる多様で新しい観光のツールを提供していく必要がある。
⑨また、観光関連団体と連携を図りながら、県内や近県の観光客の宣伝広報を強化し、３蜜対策などの新型コロナウィルスに対応した受入体制の充実が求められる。
⑩スポーツツーリズムは、スポーツの参加や観戦を目的に地域を訪れ、スポーツを掛け合わせた観光を楽しむことから、観光業において国内旅行の需要拡大及び外国人の訪日旅行拡大に繋がると考えられ、各地で「スポーツによる地域活性化」の機運が高まっている。
⑪倉吉市内で行われるスポーツ合宿の受入体制や受入環境が十分には整っておらず、市民からはその充実を望む声があるものの、合宿のニーズを十分に取り組めていない現状があります。また、感染症に対応した受入環境の整備も必要となっている。

２）倉吉市の環境分析

倉吉市の強みや弱みを把握するために、市の２次データとインタビュー資料から倉吉の内部環境「強み(Strengths)、弱み(Weaknesses)」と外部環境「機会(Opportunities)、脅威（Threats)」を４つのカテゴリーに分けて、観光分野を含めた総合的な見地から分析する。

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	強み＝Strengths ◇「住みよさランキング」安心度全国６位 ◇元気な高齢者の増加 ◇白壁土蔵群・赤瓦、温泉等の観光資源や豊かな歴史文化遺産 ◇緑の彫刻プロムナード、前田寛治大賞、管楯彦大賞 ◇鳥取県立美術館の令和７年春オープン ◇ニーズに応じた子育て支援・不妊治療助成 ◇広大な森林、県内有数の農業地帯 ◇学校教育の充実（高度専門大学校の設置） ◇空き家等を利活用した移住・定住の取組 ◇「レトロ＆クールツーリズム」の進展 ◇スポーツクライミング施設、自動車競技場、関金総合運動公園・関金温泉や大山国立公園 ◇緊急通報システムの設置、民間企業などとの見守り協定締結	弱み＝Weaknesses ◇人口減、若者の流出 ◇高齢者世帯・高齢者単身世帯の増加 ◇農林業従事者の高齢化、若者の担い手不足 ◇既存商店街のにぎわい低下 ◇娯楽・ショッピング・飲食施設等若い世代も楽しめる街の魅力不足 ◇SNS 等を活用した市内外への PR 不足 ◇雇用創出のための企業が不足 ◇実質公債費率の高さからの財源の硬直化 ◇公共交通の利便性が低い ◇農家戸数、経営耕地面積の現象 ◇農業従事者の減少と高齢化 ◇需要減少や消費者ニーズの多様化、インターネットを利用した商品販売の急速な浸透 ◇公共交通の減少 ◇日帰り、立ち寄り旅行客の割合が大きい

外部環境	機会＝Opportunities ◇コロナ禍における東京一極集中是正及び地方創生、田園回帰の流れ ◇環境問題への意識の高まり ◇AI や ICT の進歩、５G ネットワークの拡大 ◇テレワークやワーケーションの定着促進 ◇農産品を活用した６次産業化やスマート農業の進展 ◇環境ビジネスの市場規模の広がり ◇県内就職（U ターン率）が向上 ◇「スマートモビリティチャレンジ」の拡大 ◇人生 100 年時代、健康寿命の延伸 ◇ボランティアや助け合いの意識の向上 ◇クールジャパン戦略の進展	脅威＝Threats ◇地域間競争の激化 ◇低年齢の子どもたちの保育需要の高まり ◇全国的な少子高齢化進展に伴う制度改正等による社会保障費等の自治体負担の増加 ◇多発する自然災害 ◇感染症リスクの拡大・長期化 ◇地球温暖化等の環境問題 ◇コロナ禍における観光需要の大幅な減少 ◇認知症の増加 ◇8050 問題の発生と深刻化 ◇進学や就職での若者の流出 ◇子どもの減少と地域コミュニティの希薄化 ◇人間関係の希薄化

３）倉吉市の現状や環境分析から見える課題

【機会】

① 住みよさ、豊かな自然や地域資源を PR し、観光戦略に活かす必要がある。
② 雇用創出を行い、若い世代の移住・定住者を増やす必要がある。
③ 元気な高齢者の増加から、健康寿命の延伸を PR する必要がある。
④ 「レトロ＆クールツーリズム」を推進し、観光客の増加だけでなく市内の滞在時間を伸ばすための工夫をしていく必要がある。
⑤ インターネットを利活用した PR や販路拡大を強化する必要がある。

【脅威】

① 地域感競争ではなく、協力による観光客流入増を目指す必要がある。
② 保育ニーズの多様化に対応する必要がある。
③ 多発する自然災害への対応を強化する必要がある。
④ 農林業従事者の高齢化、若者の担い手不足に対応する必要がある。
⑤ 新型コロナウィルスの感染症の拡大や長期化に対応をしていく必要がある。

４）倉吉市の観光振興に向けた提言

上記の分析をもとに倉吉市の観光振興に向けた今後の取組みの方向性を提言する。

取組の方向性	主な内容
観光資源を活用した周遊滞在型観光地の創造	赤瓦・白壁土蔵群の重要伝統的建造物群保存地区の伝統ある町並み（レトロ）とアニメなどのポップカルチャー（クール）を融合した“レトロ＆クールツーリズム”に、芸術（アート）を加えてさらに推進し、ここにしかない観光地を作り上げます。また、食事（グルメ）や文化などの地域資源を磨き上げるとともに、飲食店、土産物店、体験施設、町家や古民家などを活用したゲストハウスなどの宿泊施設をエリア内に設け、観光客は電気自動車や電気自転車などのグリーンスローモビリティで移動、観光する周遊滞在型の観光地を作る。
国民保養温泉地にふさわしい関金温泉の振興	関金温泉を拠点に東大山山麓の自然や総合運動公園などを活用し、保養・休養を中心とした健康増進やワーケーションの場として自然体験、運動、温泉の健康利用等を促進し、関金温泉で健康になれる国民保養温泉地「ウェルネス・リゾート関金」を目指す。

農村の魅力を引き出す農家民泊の推進	教育旅行の誘致やグリーンツーリズムを推進し、農家でのありのままの暮らしの体験を通じて農業や農村の魅力を伝え、心に残る感動を広げる農家民泊を推進し、交流人口の拡大を図る。
観光客の受入環境の整備	観光関連施設でのおもてなし強化や観光ガイドのスキル向上などの観光資源の育成、交通アクセスの整備、観光施設等のバリアフリー化、パンフレットや観光案内標識等の多言語化など外国人観光客も含めた受入環境の設備などを行い、観光客の利便性を向上させ、快適に観光できるまちとして観光客の増加を図る。
観光情報の発信・誘客	古い商家の町並みが残っている希少性を活かし、観光のコンセプトを明確にし、市の観光イメージの形成を図るとともに、マーケットやメインターゲットを設定し、一般財団法人倉吉観光 MICE 協会、一般社団法人鳥取中部観光推進機構などの観光関係組織と連携しながら効果的かつ効率的な情報発信やプロモーションを展開し、倉吉の魅力、情報を発信していく。
スポーツツーリズムの受け入れの環境の整備	関金総合運動公園（ラグビー場、野球場、テニス場、屋根付き多目的広場、スポーツクライミング施設など、倉吉ならではの施設の魅力を最大限に引き出すため、施設や受入れ環境、体制などを整備すること。関金温泉や周辺市町の温泉地、大山国立公園などの豊かな地域資源も活かしながら合宿地、観光地としての魅力を高める。

3．本研究と関連した今後の研究、開発・改良、提案計画

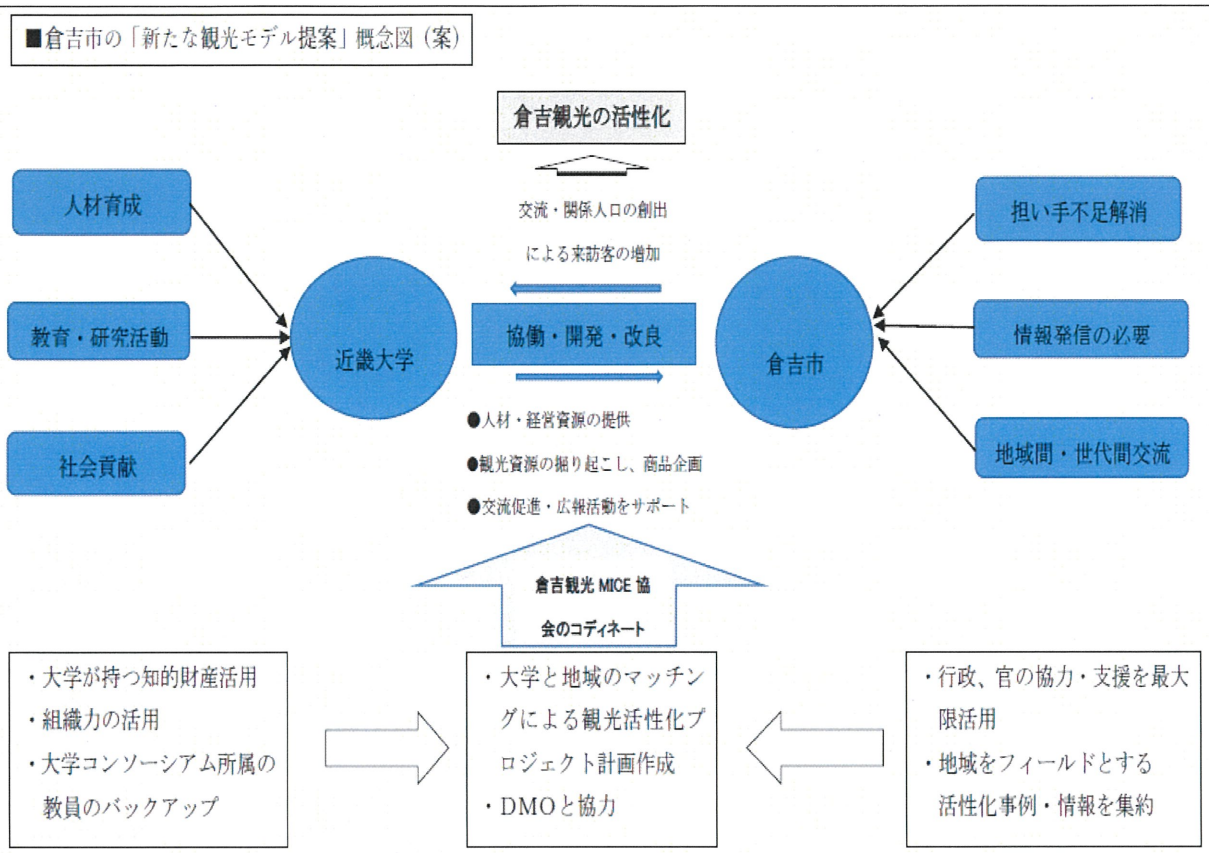
[1]本研究の継続について

（1） 地域課題の改善に向けた継続研究の有用性

研究成果の現状や環境分析について記したが倉吉市が挙げている課題の中でも喫緊のものは、担い手不足の解消、情報発信の迅速化と的確性、地域や世代間の交流促進、人的・物的資源の有効活用に尽きるものと考える。これらを改善する手掛かりとして観光の振興は欠かせないものと認識している。本研究は倉吉市が掲げる観光による地域活性化を推進するために、以下の概念図をもとに勧められた。

この内容は、令和３年度“オール近大”新型コロナウィルス感染症対策で同時に遂行された「地域の観光コンテンツ開発による交流・関係人口の拡大可能性の研究」で提案した産学公連携による集客方法でその可能性を見出すことができた。（令和３年度報告書〇頁参照）

しかし、刻々と変化する内外の環境、そして競争地域との兼ね合いで考えると持続的な発展、環境への配慮も考えると総合的な見地を堅持するも事案ごとの個別研究有用であると考えられる。公私を問わず継続研究が求められる。



目的 ●地域においては大学の知力や人的パワーを地域観光活性化に生かす、大学においては、学生の育成、研究・社会貢献の場を得る。
●地域間・世代間の交流を促進し、来訪客の増加につなげ、地域観光活性化を目指す。

しくみ ●過疎化や高齢化に伴う様々な課題を抱える地域と活動フィールドを求める都市部の大学や組織のニーズをマッチング

出所：筆者作成

（２）満足度向上のため補完的研究

本プロジェクトの目的であるアフターコロナの「新たな観光モデルの提案」のため実施された流動人口計測は一定の成果を上げることができた。このデータの解析結果を用いて、観光の開発・改良に向けた提案の方向性は令和３年度の研究報告書（資料２：商品開発および提案）にまとめている。

そして、アンケートによる実態調査は対面を忌避するコロナ過での実施が困難となり、インタビューを中心とした調査に止め、その結果を本研究の[3]の(2)で反映している。なお、当報告書にまとめた内容は、令和３年３月に公表された第 12 次倉吉市総合計画にも同一内容が言及されていることを付言して置く。

もし、研究の環境が整われる場合、令和３年度の研究の成果として提案した観光商品の満足度など補完的な研究ができれば幸いである。

４．研究成果の発表等

発　表　機　関　名	種類（著書・雑誌・口頭）	発表年月日(予定を含む)
東北亜観光研究	国際ジャーナル	2022 年 11 月（予定）

5．開発・改良、提案課題の成果発表等

・本研究の流動人口計測機器（リアルステップ）の解析データは2021年11月27日、倉吉市の打吹回廊2回コミュニティホールで行われた発表会に先立って倉吉観光MICE協会の事務局において報告済である。 ・そして、流動人口の計測結果については論文として再校正および精緻化を図り、国際ジャーナルへの投稿に向け執筆中である。